

【 A 十分達成 (100%以上) B 概ね達成 (100%未満 80%以上) C やや不十分 (80%未満 60%以上) D 不十分 (60%未満) 】

評価項目	課題	目標	具体的方策	具体的目標	実績 (内部評価)	内部評価	外部評価	外部評価	次年度の対応
1 魅力ある学校づくり (1) 学生の確保	○令和6年度の在校生は定員の51% ○農業系高校との連携強化	○定員充足率の向上	○オープンキャンパス開催 ○ホームページの更新 ○SNSによる情報発信 ○学生主体の情報発信 ○パンフレット配布 (高校、JA、行政) ○JA・市町村等広報誌への入校案内掲載 ○学校訪問の実施 (県立、私立高校等) ○高校進路ガイダンスへの参加 ○学校見学受入 ○農業系高校と意見交換会 ○新たな手法による学生募集	○入校生定員充足率70% 入校者35名(130%) うち女10名(167%) ※R6入校者実績を100とする ○オープンキャンパス 4回/年、延べ100人 ○ホームページ閲覧 100,000ビュー数 ○SNS発信回数 100回 (R5:90回) ○高校訪問への学生参加 5校 (R5:3校) ○パンフレット配布 学校案内1,400部 ポスター150部 ○全JA、市町村広報誌への掲載 ○学校訪問数 50校 (R5:48校) ○参加校数 14校 (R5:11校) ○受入校数 6校 (R5:4校) ○意見交換会 1回 (R5:4校) ○花生けバトル会場・華道部訪問	○入校生定員充足率60% 入校予定者30名(86%) 前年度比111% うち女性11名 (110%) 前年度比183% ※():対目標比 ※入校予定者:推薦と一般前期・後期試験の合算値 ○オープンキャンパス 4回 延べ76名 ○個別対応:5回 延べ5名 ○ホームページ閲覧 63,939ビュー数 参考:68,198ビュー数 (R6.3.31時点) ○SNS更新回数 37回 Fb発信の取りやめによる減少。 ○高校訪問への学生参加 4校 (80%) ○パンフレット配布数 学校案内1392部、ポスター125部 ○全JA・市町村広報誌掲載依頼 (7/9) さんSUN高知9月号・1月号掲載 JA・市町村広報4回掲載 ○学校訪問数 延104校(208%) 1回目(5月~7月):50校 ○2回目(9月):37校、3回目(R7年2月):17校 ○進路ガイダンス 参加校数15校(100%) (前年度比107%) 相談人数 延186人 農業高校:2校(4回)、普通高校:13校(13回) ○学校見学受入校数4校(67%) (前年度比100%) 受入人数93人 農業高校:2校(2回)、普通高校:2校(2回) ○花生けバトル会場・華道部訪問3回 花生けバトル1回6/9、華道部訪問2回5/29・6/13 <評価> ・学校見学受入では新規校開拓につながった。 ・オープンキャンパスでは、1・2年生の参加があり、次年度以降に向けたPRができた。 ・前年度並みの入校予定者(推薦+一般前期)を確保できた。 (R6:27名→R7:30名) <課題> ・学校訪問回数の増加に伴い、各科で分担するなど効率的に学校訪問を実施する必要がある。	C	○生徒数を確保するため昨年度と違う取り組みもしており、取り組みとしては、概ね達成 ○フェイスブックなどでの情報発信回数の増加をお願いする ○取り組みのリズムができていると思うので、さらに上がるよう取り組みの継続をお願いする	B	○オープンキャンパス(個別対応含む)の参加者数の増加と内容の充実 ○情報発信の強化 ・HPやSNSによる情報発信数の増加 ・パンフレットの配布 ・JA、市町村等広報誌への入校案内の掲載 ○高校への広報活動の強化 ・効果的、効率的な学校訪問の実施 ・高校進路ガイダンス参加校数の増加と内容の充実 ・学校見学受入れ校数の増加と内容の充実

評価項目	課題	目標	具体的方策	具体的目標	実績 (内部評価)	内部評価	外部評価	外部評価	次年度の対応
(2) カリキュラムの充実	○学生のキャリアパスが多様化 ○学びの機会を提供	○時代のニーズにマッチした教育内容の充実 ○G-GAP認証の継続取得 ○全品目でGAPの考え方を実践 ○聴講制度の整備	○専門科目の充実 ○スマート農業実践(ICT等活用) ○進路希望別カリキュラム実施 ○販売実習の実施 ○G-GAP認証に向けた実践教育・「GAP」講義の実施・適正な生産工程管理の実施、チェックリストの作成、内部評価 ○基礎的知識・技術および先進的技術の習得機会確保	○6次産業化実習(60h) ○大型特殊免許(農耕車限定)受験者全員合格 ○スマート農業(15h) ○キャリア形成演習(1年生33時間) 進学対策(2年生15時間) 英語特別講義(2年生15時間) 危険物・毒劇物(2年生9時間) 国際情勢(中国・ベトナム2年生9時間) ○販売実習の実施 ○農大ショップ、日曜日での販売実習 ○G-GAPの継続取得 ○聴講科目の設定(植物生理、植物病理学、スマート農業、土壌肥料学、生物工学、IPM、化学基礎、物理基礎、園芸各論)	○6次産業化実習(60h) ○大型特殊免許(農耕者限定)受験者8名 講習1/28 ○スマート農業(15h) ○キャリア形成演習(1年生33時間) 進学対策(2年生15時間) 英語特別講義(2年生15時間) 危険物・毒劇物(2年生9時間) 国際情勢(中国・ベトナム2年生9時間) ○販売実習11回(R5:10回) 農大ショップ(9/5、10/3、2/20) 日曜日(9/15)、みどりの週間(4/20) ○伊野商業学園祭(10/26) 農業教育フェア(12/14) ○農福マルシェ(12/22、2/9) 農業技術センター公開DAY(1/18) ○高知のやさい・くだもの・花祭り(2/1) ○G-GAP継続取得 「GAP」講義実施、リスクの洗い出し 出荷調製室等の清掃(週3回) 規格変更への研修(11/21)、内部検査(10/18・19) 是正措置の進捗確認(1/23)、審査(1/28)、認証 ○聴講科目の設定11科目(植物整理I、植物整理II、植物病理学I、植物病理学II、スマート農業、土壌肥料学、生物工学、IPM、化学基礎、物理基礎、園芸各論) <評価> ・資格取得支援の他、魅力あるカリキュラムづくりができています。 ・高校学園祭での物販や農福連携など、新たな取り組みが始まりました。それにより農大のPRにつながっている。 <課題> ・イベントの時期が集中するため各科の連携強化が必要。	B	○イベントが重なってくる時期は忙しいが、販売実習の継続実施をお願いする	B	○国際情勢などカリキュラムの充実 ○販売実習機会の確保と実習内容の充実 ○G-GAPの継続取得 ○聴講科目の充実
(3) 社会人の養成	○社会人としての意識向上 ○コミュニケーション能力の向上 ○多様な学生への対応	○社会人として行動・実践できる人材育成 ○現状把握と対応策の検討	○入校時の生活指導 ○日常的な授業・生活指導 ○寮の部屋替え ○メンタル面のカウンセリング実施 <臨床心理士> 1年生26名	○社会人としてのルール、マナーを守る学生の育成 ○人権・コミュニケーション能力向上 ○メンタル面のカウンセリング結果を教員間で情報共有、指導能力向上	○1年生:社会人基礎力(15h)、キャリア形成演習(33h)、 2年生:進路別選択(60h) ○インターンシップ(1年生6/17~20・6/24~27) 先進農家留学研修(2年生10/17~11/27) ○寮の部屋替え(10月1日) ○1年生カウンセリング実施(26名7/23~7/30) <評価> ・学生の状況について、臨床心理士、舎監、職員等で共有して指導できている。 <課題> ・インターンシップや先進農家留学研修に適應できない学生もいるため、学生に合った対応が必要。	C	○先進農家等留学研修の研修先の決定を可能な限り早くお願いする ○インターンシップも含め取り組みの継続をお願いする	C	○学生に合ったインターンシップや先進農家等留学研修の実施 ○メンタル面のカウンセリングの実施

評価項目	課題	目標	具体的方策	具体的目標	実績 (内部評価)	内部評価	外部評価	外部評価	次年度の対応
2 専門性の向上 (1) オランダとの交流	○レンティス校との交流継続	○国際的な感覚を備えた人材の育成	○レンティス校学生の受入(約10日間) ○英会話能力の向上(特別講義) ○オランダへの派遣研修(短期研修約10日間)	○学生数名、引率教官:受け入れ時期4月下旬 ○特別講義5回、15時間 ○希望学生(2年生)引率教官 時期:8月末~9月上旬	○学生6名、引率教官2名(4/19~4/29) 歓迎会・スポーツ交流(4/22) 校内圃場等での交流(4/24) 産地視察(4/23、4/25、4/26) ホームステイ(4/26~4/28) ○特別講義7月5回15時間 ○派遣研修 <u>2年生6名(R5:5名)</u> 8/31~9/8、教官引率 派遣研修報告会10/8 <評価> ・R7年の来高準備を進めており、交流が継続できている。 ・派遣研修学生を前年度より増やすことができ国際的な感覚を備えた人材の育成につなげた。 <課題> ・寮のキャパや対応職員の調整等もあり、これ以上の受入は難しい。	A	○大変良い取り組みで、継続していることはすごいことと思う。取り組みの継続をお願いする	A	○レンティス校との交流継続
(2) プロジェクト活動の強化	○課題解決のための計画、実行、分析能力の向上	○卒論審査全員合格 ○次世代ハウスを活用したプロジェクトの実施2課題以上	○地域課題に対応したプロジェクト課題の選定 ○四国農学連意見発表会に参加(12月、2名) ○中国四国農学連プロジェクト発表会に参加(1月、2名) ○実習後の実習日誌の指導(年間) ○次世代型ハウスを活用したプロジェクト実習(年間)	○学生の自主性を高める指導の実現 ○プロジェクト審査 2年生園芸学科23名 畜産学科2名 ○四国農学連意見発表会で上位入賞(1年生) ○中四国農学連プロジェクト発表会で上位入賞(2年生) ○実習日誌による指導回数(各専攻課程1回/週) ○次世代型ハウス(高軒高ハウス)の活用 ・環境制御の理論及び操作方法の習得指導(園芸学科1・2年生全員対象)	○プロジェクトテーマ決定1年生 野菜7月、果樹10月、花き5月、畜産12月 ○プロジェクト審査12/24 2年生25名 ○四国農学連意見発表会 12/11 発表者1年生2名 3位入賞1名 ○中四国農学連プロジェクト発表会 1/16・17 発表者2年生2名 ○実習日誌による指導回数 野菜・花き1回/月、果樹2回/月、畜産4回/月 ○次世代型ハウス(高軒高)の利活用 ・トマト2課題のプロジェクト学習を実施 ・環境制御の理論及び操作方法の習得指導(園芸学科1・2年生) ・ <u>新</u> 高知農業高校、幡多農業高校との合同授業10/24 <評価> ・2年生全員がプロジェクト学習を完了できた。 ・農業高校2校と新たに環境制御の学習の場づくりができ、学習機会の拡大につながった。 <課題> ・環境制御技術など学習内容の充実が必要。	B	○プロジェクトについて昨年度、中国四国、全国の大会に行かせてもらい大変勉強になった。プロジェクトをまとめ始めるときに、動画でも良いのでレベルの高い発表をみれば大変参考になると思う。 ○環境制御は設定したらそのままではなく、常にハウス内の環境を見て、設定を変えていくことが重要 ○取り組みの継続をお願いする	B	○プロジェクト学習の内容の充実
(3) 法人の求める能力の育成	○コミュニケーション力の向上 ○農業法人との連携	○法人就農者の確保	○法人での雇用就農に対応した講義の実施 ○法人とのマッチング ・法人説明会 ・インターンシップ ・先進農家留学研修	○法人就農割合・人数16% 4名(R5:6%、2名) ○労務管理の講義(社労士)(2年生) ○法人説明会開催(2年生25名) ○インターンシップ実施(1年生26名) ○先進農家留学研修実施(2年生25名)	○法人就農割合・人数:8% 3名(対前年比150%) ○労務管理講義2年生 10/7 ○法人説明会 2年生 6/7 7法人 ○法人見学会 2年生 9/30 3法人 ○インターンシップ1年生 1回目 R6/6/17~20・6/24~27 2回目 R7/1/27~30・2/3~6 ○先進農家留学研修 R6/10/17~11/27 <評価> ・前年度並みの法人就農者を確保できたが、目標の4名には届いていない。 <課題> ・求人のある法人が限定的であり、また、継続した雇用がない。求人の新規開拓や法人へのPRが必要。	C	○法人への就農者確保に向け取り組みの継続をお願いする	C	○法人の求人情報の収集と法人への農大PR

評価項目	課題	目標	具体的方策	具体的目標	実績 (内部評価)	内部評価	外部評価	外部評価	次年度の対応
(4) 各種資格・免許取得	○必要な資格免許の取得	○専攻課程に応じた免許取得者の確保 ○資格取得のための支援	○資格取得の必要性の周知、講義・補習実施【資格・免許等】 ・日本農業技術検定 ・フォークリフト運転 ・小型車両系建設機械(3t未満) ・大型特殊免許(農耕車限定)(選択) ・フラワー装飾(選択) ・家畜人工授精師(選択)	○合格者数 ・日本農業技術検定 3・2級 延べ26名 ・フォークリフト運転 23名 ・小型車両系建設機械(3t未満) 26名 ・大型特殊免許(農耕車限定) 10名 ・フラワー装飾技能 3・2級 7名 ・家畜人工授精師 4名	○合格者数 ・日本農業技術検定 3・2級 延べ9名/26名(35%) 3級 9名/17名、2級 0名/9名 ・フォークリフト 23名/23名(100%) ・小型車両系建機(3t未満) 特別教育 1/16・17 ・大型特殊免許(農耕車限定) 免許取得講習 1/28 ・フラワー装飾技能 3・2級 6名/7名(86%) 3級 5名/6名、2級 1名/1名 ・家畜人工授精師 3名/3名(100%) <評価> ・資格取得のための支援を行い、高い合格率を維持できた。 <課題> ・就農等に有利な新たな資格取得の場の設定が必要	B	○将来、農業をやろうと考えているので、大型特殊やフォークリフトなどの資格が取得できるのは大変良い ○ドローン操縦の資格が取れると更に良い ○資格取得のための取り組みの継続をお願いする	B	○就農等に有利な資格取得支援の拡大
3 進路支援活動の強化 就職活動の支援体制の強化	○卒業後直ちに就農できる学生は少ない ○就職活動の意欲が低い学生が散見	○進路指導の徹底	○進路別カリキュラム(就農、雇用就農、就職、進学)の支援 ○三者面談の早期実施 ・2年生:5月実施 ・1年生:9月実施 ○就職試験対策 ・面接補習、基礎学力補習 ・履歴書作成指導 ○求人情報の把握と紹介(玄関前への掲示) ○個別に求人紹介 ○校内会社説明会実施 ○高知大学への3年次編入に向けた進路指導の充実	○進路内定率 100% 25/25名 (R5:94%、30/32名) ○就農者数 5名 (R5:4名) 親元:1名 (R5:2名) 雇用:4名 (R5:2名) ○編入合格者 希望学生全員	○進路内定率 24名/25名(96%) ○三者面談の実施(2年生:5月、1年生:9月) ○就職試験対策(適宜) ○就農者数5名 親元:2名、雇用:3名 ○農業関連企業等:18名 ○高知大編入合格者1名/3名(R5:1名) <評価> ・進路支援により、3月末の進路内定率100%を見込む。 ・学生希望とのミスマッチ等により、本校への求人すべてに答えられていない。 <課題> ・学生の希望に合った本校への求人の確保が必要。	B	○学校と相談しながら就職先を決めることができ良かった ○インターンシップの経験が就職につながった ○インターンシップで主食先を絞り込むことができた ○就職活動の支援の継続をお願いする	B	○就職活動・進路指導支援の充実
4 教職員のスキルアップ 研修の強化	○生産現場の課題をいち早く授業に取り入れて円滑な就農(雇用就農含む)に結び付けることが必要	○各種研修への参加 ○指導内容、方法の充実	○教官研修の受講 ○産地の栽培技術等の動向調査 ○職場研修実施	○西日本担当者会(野菜、花き、果樹、畜産) ○中国四国教務担当者会 高知県開催 ○試験研究及び産地視察調査 ○教官のスキルアップ研修	○西日本担当者会 野菜:高知県 11/19・20 花き:高知県 11/7・8 果樹:長崎県 台風のため中止(8/29・30) 畜産:福岡県 8/22・23 ○中国四国教務担当者会 高知県 8/23 ○試験研究及び産地視察調査 野菜 11回、花き 4回、果樹 5回 ○教官研修 8/22「人材育成の考え方とノウハウ」 8/28「学校安全の実践研修」 10/24/29「公務員倫理研修」 「人権問題研修」 <評価> ・新たな研修の場を設けるなど、教官のスキルアップに努めた。 <課題> ・入校学生に対応するため教官のさらなるスキルアップが必要。	B	○教官のスキルアップのための取り組みの継続をお願いする	B	○教官のさらなるスキルアップ